

## ◆地域活動

# 藻体付き保存網の再生試験

## (ヒトエグサ養殖指導)

水産海洋技術センター 大城信弘

### 1. 背景・目的

羽地漁協組合員より、収穫後に洗わずに、野積みにして置いた養殖網を、次シーズンに張り出すと、網が未だ緑色を呈し、そのまま藻体の一部が生き残り、再生するのでは無いかとの疑問が呈され、越夏保存網の再生を試みた。

### 2. 方法及び結果

網の保存は、軽く洗浄後天日干しで半乾燥状態にし、ゴミ袋に入れ、それを冷凍、冷蔵、常温保管し、種取りシーズンに順次養殖現場に張り出した。

設置した網の経過は以下の通り。

①3月28日に屋我より網4枚を回収。その内の2枚は泥落としの為、漁港の内外に仮張り。

1枚は軽く水を切り、ゴミ袋に入れ、1枚は一晩そのまま陸上に置いておき、翌日に海で揉み洗い後、一晩干し、それをビニール袋に入れ、さらに黒の土嚢袋に入れ、木陰で70Lのポリ容器に蓋をして保管した。

4月3日には、海に仮置きした網1枚を泥落としの後に回収し、5日に日中に干し、ゴミ袋に入れて、4月10日に羽地漁協の冷凍庫に保管した。

4月30日に、海の残り1枚の網を回収し、泥を落とし、黒の土嚢袋で水を切り、それをゴミ袋に入れ、木陰で保存した。

②4月9日に、饒平名より網2枚を回収し、足踏み洗浄後に1日干し、ゴミ袋に入れ、それを段ボールに入れて、4月16日に、

栽培漁業センターの冷蔵室と、冷凍室に保管した。

③4月15日に、饒平名、屋我より各2枚を回収し、足踏み洗浄後、軽く水を切り、ゴミ袋に入れ70Lのポリ容器で木陰で保管した。

④4月30日に、屋我より網2枚を回収し、黒の土嚢袋に入れ水を切り、それをゴミ袋に入れ、木陰で保管した。

⑤5月1日に屋我より、網2枚を回収し、黒の土嚢袋に入れ水を切り、それをゴミ袋に入れ、木陰で保管した。

⑥6月2日に、饒平名と屋我から各1枚を回収し、翌日に1日干し、ゴミ袋に入れて、木陰で保管した。

⑦6月12日に、屋我より網2枚を回収し、乾燥後ゴミ袋に入れ、黒の土嚢袋に入れて木陰で保管した。

これらを、種取りシーズンの、8月27日から11月6日に掛け、順次、通常の種取り網と同じに、大凡5枚重ねで張り出した。

張り出し時には、脱色し白化した部分も有ったが、大きな藻体は、多くは緑色を保っていた。

しかし、藻体は張り出した翌日から白化し、3日から一週間後には、ほぼ消失した。

但し、9月10日張り出しの、冷凍保存網は9月22日の顕微鏡観察では、僅かに緑色部があり、ヒトエグサ藻体の一部は生きていと観られた。

これらの網は、その後、周囲の天然ヒトエグサの発生に合わせて、通常の網張りと同様に、ヒトエグサが着生生育した。

### 3. 考察

今回は、保存網のヒトエグサ葉体からと思われる発芽は確認出来なかった。

但し、冷凍保存網では、ヒトエグサと思われる藻体が僅かながら観られ、冷凍保存での細胞の生存報告もあり、今後も引き続き試験が必要とされる。

今回は、藻体が縮小する、生育期後半の、いわば消滅期の網を用いた。再生能力は、生育時期によっても異なる可能性があり、その面からも、今後に試験が必要とされる。



図1 冷凍保存網



図2 展開前の網の状態



図3 展開直後の冷凍保存網